

学校教育目標 (教育方針)	1 自主性を重んじ、個性と能力を伸ばし、豊かな知性と創造性、実践力を育成する。 2 豊かな心の育成と健康・体力の増進を図る。 3 社会の一員としての責任と自覚を促し、たくましく生きる力を育成する。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか【GP】	・「話す力」「書く力」「表現する力」を身に付け、自分の意見を適切な手段で、内容をわかりやすく論理的に伝えることができる生徒 ・「情報を集める力」「情報を分析する力」「課題を発見する力」を身に付け、集めた情報を様々な見方で分析し、解決すべき課題を見つけ出すことができる生徒 ・「計画する力」「実行する力」「協働する力」を身に付け、経験したことがない分野でも実現可能な計画を立案し、責任を持って行動し、他者と協働して課題解決に取り組むことができる生徒
	生徒をどう育てるか【CP】	・基礎的基本的な知識・技能の定着を図りながら、ICT機器の活用やグループワークを通じた思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション力を育成する授業の実践とルーブリック等を用いた学習評価の実施 ・進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援の実施 ・生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育成するために、地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」活動の実施
	どんな生徒を待っているか【AP】	・他者の意見を尊重でき、人への思いやりの気持ちを持ち、他者と協働しながら取り組む意欲のある生徒 ・生徒会活動、部活動、ボランティア活動、地域貢献活動等に積極的に参加し、より良い学校や社会を築いていこうという意欲のある生徒 ・探究心が旺盛で、進路目標の実現を目指し、仲間とともに切磋琢磨し、成長しようとする意欲のある生徒
学校の抱える課題	・生徒間に学力差があり、基礎学力に課題を抱えた生徒も多い。 ・対人関係を構築していく能力に課題を抱える生徒が増えてきている。 ・少人数教育の環境下で個々の学力や進路希望に対応したきめ細かい指導をしている一方で、その魅力が十分に地域に伝わっていない。	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	地域とともにある魅力ある高校づくりを進める 教職員が生徒一人一人としっかりと向き合うことができるように、教職員の働き方改革を進める
	学習指導	授業改善と学習指導の充実に努め、主体的・協働的に取り組む態度を育てる 「地域に根付いた地域に愛される地域に貢献できる学校づくり」を通じ、課題解決能力を育てる
	生徒指導	共感的な理解に徹し、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育てる 自らが健康で安全な生活を営む能力や態度を育て、環境美化を通じて豊かな心を育成する
	進路指導	生徒が主体的に将来にわたる進路を設計できるように計画的・組織的に支援する

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A,B,C,D	成果と課題	総合評価 A,B,C,D
学校経営	① コミュニティ・スクールの機能を充実させることで、教職員・地域住民・保護者による目標・ビジョンの共有を図り、学校関係者が持つ専門性やネットワークを生かした学校運営を行います。	7	施策Ⅰ-7	①③学校運営協議会委員、保護者による評価 ②中学生の進路希望調査、1日入学参加者数 生徒・保護者による学校評価 ④勤務時間調査、校長面談	① 学校運営協議会委員からの意見を取り入れ、学校経営を推進、学校評価アンケート2回実施等 ② 「ESD」「理数探究」等のYCK活動をととして課題解決型学習を普通科、理数科ともに実践 ③ 県や飛騨市の助成金を得ながら地域の人材や資源を活用したふるさと教育の実践 ④ 出退勤システムの入力等勤務管理の徹底、面談、アンケートを通して職員の勤務状況の把握	B A A B	B
	② 「普通科」、「理数科」それぞれの特色ある教育課程により、地域人材や教育資源を活用した魅力ある教育活動に取り組みます。	20	施策Ⅳ-20				
	③ ふるさと教育の推進と飛騨市学園構想により、課題解決に取り組む学習を充実させます。	4	施策Ⅰ-4				
	④ 職員の勤務の適正化を図り、業務の平準化に努めます。	27	施策Ⅳ-27				
学習指導	① 基礎的基本的な知識・技能の習得を図るとともに、アクティブラーニングを推進し、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、新しい価値を創造する力を身に付けさせます。	8	施策Ⅱ-8	①生徒による授業アンケート、教員相互の評価 ②③授業アンケート、卒業生アンケートの評価、生徒・保護者等による学校評価 ④YCKプロジェクトへの参加生徒数	① 研究授業・公開授業による指導力向上 ② アンケート調査による学習活動の点検と改善 ③ 各教科の授業改善 (ICT機器活用等) ④ YCKプロジェクト延べ30の活動に1438人が参加	B B B A	B
	② 少人数学級や習熟度別授業、進路希望に合わせたコース設定や選択授業など、個々に応じたきめの細かい学習支援を行います。	8	施策Ⅱ-8				
	③ 1人1台端末によるMetaMoJi Classroomを活用した学習活動を充実させる中で公開授業、研究授業を計画的に行い、生徒が主体的・協働的に取り組むことのできる場を多く作ります。	9	施策Ⅱ-9				
	④ 地域課題解決型キャリア教育である学校設定教科「ESD」を含めた「吉高地域キラメキ(YCK)プロジェクト」の活動を通して、生徒の課題解決能力と主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を育てます。	4	施策Ⅰ-4				
生徒指導	① 「生徒指導の指針」「いじめ防止基本方針」をもとに、指導の共通理解、共通行動を行い、生徒の自律心、判断力、責任感を育みます。	3	施策Ⅰ-3	①生徒・保護者・職員への生活安全調査(年3回)生徒・保護者による学校評価、ネット・SNSによるトラブルの増減等 ②いじめ防止等対策検討会議での評価(弁護士・SC・地域代表・育友会長他) ③球技大会や柏葉祭等の生徒会行事への取り組み状況、部活動加入率、参加・活動状況、大会成績等 ④健康診断受診割合受診率、生徒委員会の取り組み状況、減災カテスト実施前後比較、非常変災時帰宅確認報告率、生徒・職員による安全点検、防災士資格取得数	① 日常の学校生活や調査等からの情報共有 個別の組織対応。情報モラル指導の実施 ② 日常的教育相談活動と情報共有による生徒支援の実施 人権LHRの実施、スクールカウンセラーの活用 ③ 公式ポロシャツの作成、柏葉祭への中学生招待の実施、部活動加入率86% 結果(陸上部:東海大会出場、科学部:全国大会出場) ④ 養護教諭による健康面の啓発活動、生徒保健委員会・環境委員会の活性化、命を守る訓練の実施、防災リーダーによる「防災について考えよう(2学年対象)」実施	B B B B	B
	② 生徒の状況や情報を常に把握し、職員間で情報を共有しながら日常的な教育相談活動と生徒支援を行います。	3	施策Ⅰ-3				
	③ ホームルーム活動を中心に、生徒会活動、部活動、委員会活動等の諸活動を通じ、生徒たちが協働し、集団の中で望ましい人間関係を構築することを支援します。	1	施策Ⅰ-1				
	④ 健康教育(健康診断や健康意識向上活動)や防災教育(命を守る訓練など)を通じて、自らが健康で安全な生活を営む能力・態度を育てます。	19	施策Ⅲ-19				
進路指導	① 生徒が自己の適性や能力を理解し、生きがいをもってライフプランニングができるよう望ましい職業観や人生観を育成します。	13	施策Ⅱ-13	①進路希望調査の結果や説明会等での振り返り内容 ②共通テスト出願者数、大学合格実績、公務員合格率等 ③各種調査及び模擬試験等の結果 ④生徒の身に付いた能力を評価する指標の活用、YCKプロジェクト報告会	① インターンシップ、分野別説明会 各種職業説明会の実施 ② 国公立大学共通テストなし(総合型選抜・学校推薦型選抜)9人中4名合格 公務員志望者2名合格 ③ 進路説明会の実施、保護者進路説明会の実施 ④ ルーブリックによる評価を2月に実施予定	B B B B	B
	② 3年間を見通した進路指導計画(補習、模試、面接小論文指導等)を確立して生徒の進路実現を支援します。	8	施策Ⅱ-8				
	③ 生徒、保護者、職員にとって必要な進路情報を提供するとともに個に応じた支援を行います。	7	施策Ⅰ-7				
	④ YCKプロジェクトを通して自らのキャリアに向き合い、社会的・職業的自立を促すとともに、社会の中で自らの役割を主体的に果たそうとする態度を育てます。	13	施策Ⅱ-13				

来年度に向けての改善方策等

(学校経営) 令和8年度カリキュラム(ESD地域プロジェクト)の見直しを図る。  
(教務) 授業を年中公開しているということについて校内外に周知を図り、本校の教育活動についての地域の理解促進を図る。  
(生徒指導) 生徒心得の改定も含め、よりよい生活を自分たちで考える機会を充実させる。  
(進路) 保護者や学年会と連携をより深め、引き続き個に応じた指導を行っている。  
(特活) 全校生徒が自身の学校生活について知ったり、考えたりすることが出来る機会を充実させる。  
(保健厚生) 生徒の安全意識を向上させるために、学校施設点検を職員だけでなく生徒にも実行させる。  
(キャリア) 学年や分掌、各教科の連携をより深めて様々な活動を通して「見つける力」「解決する力」「伝える力」を育てる。  
・生徒が身につけた力、地域で活動した経験から学んだことを自らのキャリアに生かせるようサポートする。  
・YCK活動の学校内外への広報をより充実させる。

学校関係者評価

実施日: 令和7年2月7日

・探究活動を通して、生徒が自分たちがどうしてその探究をしようと思ったのか、どのように取り組んだのか、そしてどのように成長したのかを理解できる活動となっていた。  
・吉城高校の活動は、生徒が自分ごととして捉えた課題を探究し、生徒の人生に影響を与える活動をしていると言える。  
・学校が安心して失敗しやすい場所となり、教員がそれを支えている。  
・探究活動の充実が何よりの進学の助けになると思うし、職業観、仕事観を高めることになる。本人の動機を大切に、具体的な事象や出来事から「自分たちで何かをなしなければならない」という思いを生徒たちに持ってもらうことが重要である。  
・生活安全調査やアンケートをこまめに行っており、いじめなどの問題に対して小さなことでも見逃さないように丁寧に行っている。  
・飛騨市との連携の下、地元の中学校や地元地域との交流をもっと増やして、市民全体に理解、協力できる活動を期待する。  
・これだけやっているのに志願者が少ない。PRが足りないのか、なぜ地域に受け入れられていないのか、何か手立てはないのか考えなければならない。